

# Hara Museum of Contemporary Art

Press Release 2012/1/12

## ジャン=ミシェル オトニエル:マイ ウェイ

2012年1月7日[土] - 3月11日[日] 原美術館 [東京・品川]

フランスを代表する現代美術作家、ジャン=ミシェル オトニエルの日本初個展  
ジュエリーの如く輝くガラスの大型立体作品を中心に、初期作品を含めた約60点を一挙公開



原美術館(東京都品川区北品川4-7-25)にてジャン=ミシェル オトニエルの日本における初個展を開催します。この展覧会は、パリのポンピドゥー センターにおいて3カ月の会期で20万人という記録的人数を動員したオトニエルの回顧展を、かつて邸宅であった原美術館の空間にあわせて再構成するものです。

オトニエルは、パリ市中心に位置するメトロ「パレ ロワイヤル ミュゼ ド ルーブル」駅エントランスとして設置された大作「夢遊病者のキオスク」(2000年)の制作や、主要な美術館における展覧会開催などで活躍し、フランスを代表する現代美術作家です。日本では、原美術館の別館ハラ ミュージアム アーク(群馬県渋川市)に、赤いガラス玉をハート型に連ねた野外作品「Kokoro」(2009年)が常設され、来館者をやさしく迎えています。

本展では、硫黄や蜜蝋を用いた初期作品から、ムラーノ島などの色鮮やかなガラスを素材にした最新の立体作品まで約60点を一挙公開し、その25年の歩みを一望します。展覧会名「マイ ウェイ」はフランク シナトラの名曲より引用されたもので、周囲に左右されることなく自分の流儀で制作を続けてきたオトニエルの歩みを象徴しています。

生と死、自由と苦悩、美と官能—ジャン=ミシェル オトニエルの世界をお楽しみください。

「ラカンの結び目 (Le Nœud de Lacan)」(部分)2009年 鏡面ガラス、金属 150 x 135 x 50 cm  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Collection François Odermatt Photo by Guillaume Ziccarelli  
Courtesy of Galerie Perrotin, Paris

An exhibition of the Centre Pompidou, Paris  
The exhibition “Jean-Michel Othoniel, My Way” has been designed by the Centre Pompidou in close collaboration with Jean-Michel Othoniel, and was presented at the Centre Pompidou, Paris, from March 2 to May 23, 2011.

## 【開催要項】

展覧会名	ジャン=ミシェル オトニエル:マイ ウエイ(原題 Jean-Michel Othoniel, My Way)
会期	2012年1月7日[土]-3月11日[日]
会場	原美術館 東京都品川区北品川4-7-25 〒140-0001 Tel 03-3445-0651(代表) Fax 03-3473-0104(代表) E-mail info@haramuseum.or.jp ウェブサイト <a href="http://www.haramuseum.or.jp">http://www.haramuseum.or.jp</a> 携帯サイト <a href="http://mobile.haramuseum.or.jp">http://mobile.haramuseum.or.jp</a> ブログ <a href="http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum">http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum</a> Twitter <a href="http://twitter.com/haramuseum">http://twitter.com/haramuseum</a> (アカウント名 @haramuseum)
主催	原美術館
共催	ポンピドゥー センター
特別協力	フランス大使館、フランス観光開発機構
助成	Institut Français
協賛	ボンポワンジャポン株式会社、Saint-Just
開館時間	11:00 am-5:00 pm(水曜は8:00 pmまで/入館は閉館時刻の30分前まで)
休館日	月曜日(祝日にあたる1月9日は開館)、1月10日
入館料	一般1,000円、大高生700円、小中生500円/原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料/20名以上の団体は1人100円引
交通案内	JR「品川駅」高輪口より徒歩15分/タクシー5分/都営バス「反96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩3分。
関連イベント	会期中、子供向けワークショップ「ふしぎな現実」(原題 Le Réel Merveilleux)を原美術館内ザ・ホールにて併催(主催:ボンポワンジャポン株式会社、原美術館 キュレーション:ラボワット株式会社)

\* 日曜・祝日には当館学芸員によるギャラリーガイドを行いません。(2:30pmより30分程度)

**H A R A**  
**MUSEUM**

**Centre**  
**Pompidou**



**INSTITUT**  
**FRANÇAIS**



*Bonpoint*  
PARIS

## 【概要】

「マイ ウエイ」展はオトニエルが満を持して発表している個展。2011年3月にパリのポンピドゥー センターでスタートし、ソウル→東京→ニューヨークの3都市を巡ります。硫黄や蜜蝋を用いた初期の作品からガラスを素材にした最新の大作まで、周囲に左右されることなく「マイ ウエイ」を貫いた25年に及ぶ制作の中から約60作品を一挙公開。原美術館の空間が、まさに珠玉の数々で満たされたラビリンスへと変貌します。

## 【見どころ】

- \* フランスを代表する現代美術作家、ジャン=ミシェル オトニエルの日本初個展。
- \* ジュエリーのように魅惑的な輝きを放つムラーノガラスなどを用いた最新の大型立体作品と、そこへ至る25年の制作より約60点を一挙公開。
- \* 20世紀初頭に建造された旧個人邸宅を改装した原美術館の空間を活かした展示。
- \* ガラスの大型立体作品2点を屋外に展示。

### 【ジャン=ミシェル オトニエルとは】

パリを拠点に活動するオトニエルは、イタリア・ヴェネツィアのムラーノ島で制作するガラス玉を用い、ジュエリーの如く輝く魅惑的な作品で注目されるアーティストです。中でも2000年にパリで制作したメトロの駅、パレ ロワイヤル ミュゼ ド ルーブルのエントランスとして設置された「夢遊病者のキオスク(Le Kiosque des Noctambules)」は、オトニエルの代表作としてパリの人々に愛されています。昼間は太陽の光に照らされ生き生きと、夜は電灯に怪しく煌めき、異次元への入口のような趣を呈しています。



「夢遊病者のキオスク(Le Kiosque des Noctambules)」2000年  
ムラーノガラス、スチール、アルミニウム、セラミック 560 x 600 x 200 cm  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 ©RATP-DGC  
Photo by Jean-François Mauboussin (参考図版)



### 【ジャン=ミシェル オトニエル プロフィール】

1964年、フランス、サン エティエンヌ生まれ。1980年代より、硫黄、鉛、蜜蝋といった可変性の素材を使って制作。93年よりガラスを用い始める。装飾性と官能性が作品の特徴として挙げられ、カルティエ現代美術財団(2003年)、パリ装飾美術館(2007年)、ポンピドゥー センター(2011年)などで個展を開催の他、ドクメンタ IX(1992年)や光州ビエンナーレ(2000年)、イスタンブール ビエンナーレ(2007年)などの国際展でも活躍。日本では、1991年に原美術館の別館 ハラ ミュージアム アークにて開催された「Too French」展に参加、3週間の滞在制作を行った。また2006年には東京都現代美術館での「カルティエ現代美術財団コレクション展」にて紹介。現在、パリ在住。

<http://www.othoniel.fr> <http://www.perrotin.com>

©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Photo by Sang Tae Kim  
Courtesy of PLATEAU, Samsung Museum of Art, Seoul

### 【ジャン=ミシェル オトニエルと原美術館】

原美術館では、1991年、別館ハラ ミュージアム アーク(群馬県渋川市)にて「Too French」展を開催した際、若きオトニエルに滞在制作をしてもらい、以来20年間親交を深めてきました。そして2009年には、大型野外作品「Kokoro」をハラ ミュージアム アークの庭に設置。来館者を出迎える本作は、ある方向からは抽象的なフォルムに、別の方向からは大きなハートに見えるという形のユニークさと、野外作品でありながら脆く儂いガラスでできた彫刻であるという点を特徴としています。



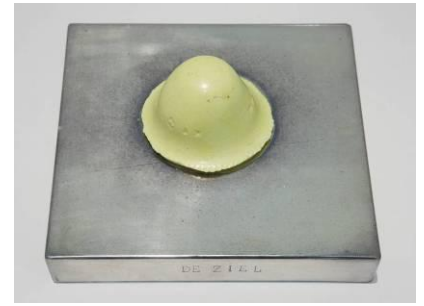
「Kokoro」2009年 ムラーノガラス、スチール 300 x 280 x 135cm  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012  
Photo by Yuichi Shiraku  
Permanent installation at Hara Museum ARC, Gunma (参考図版)

## 【主な出品作品】

### 「底で象られた魂(L'Âme moulée au cul)」 1989年 硫黄、銀 8×20×20 cm

初期の作品に特徴的な硫黄を素材に用いている。オトニエルは、もともとは写真表現を中心としていたが、感光材料を試すうちに硫黄と出会う。排泄物をイメージさせるその色や臭い、可変性といった素材そのものへの関心に加え、「soufre」(硫黄)という言葉から、「souffrir」(苦しむ)、「souffreteux」(病弱な)などと連想し、自らの内にある様々な葛藤と絡めて表現できる格好の素材と考えていたようだ。硫黄は銀と接すると銀を腐食させる性質をもつ。ここではドーム型の硫黄の塊が銀の台座を少しずつ変容させている。

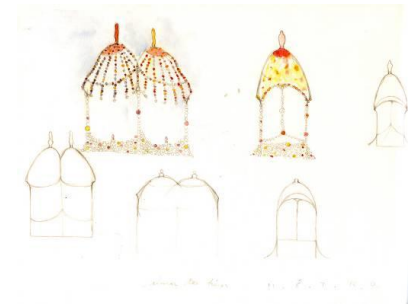
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Artist Collection Photo by Guillaume Ziccarelli



### 水彩画 1996年/2000年 紙に水彩絵具 各 26×36cm(紙) 36×46×3.5 cm(額) (17点)

繊細な素描。ベッドやドーム形など、後にガラス製の大型作品となって実現したものが描かれている。淡色で描かれたモチーフはどれも可愛らしく、オトニエルの夢の詰まったエスキースである。 *Aimer tes héros (M.É.T.R.O.)*, 1997 ©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012

Artist Collection Photo by Jean-Michel Othoniel



### 「無題(Sans titre)」 1997年 ムラーノガラス 30×12×12 cm

オトニエルがガラスを使い始めたのは1993年頃から。彼はもともと硫黄や蜜蝋など可変性のある素材に関心をもってきたが、ガラスもまたそのひとつ。熱することでいかようにも変容し、冷えることで形が保たれる。この作品のグニャリとした形は、ガラス職人が吹き損じた花瓶のようでもある。また、機能を持たないガラスは人体の一部のようでもあり、赤やオレンジといった暖色と相まって艶めかしく虚空に吊り下がっている。

©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Artist Collection Photo by Guillaume Ziccarelli



### 「黒は美しい(Black is Beautiful)」 2003年 ムラーノガラス 320×80×15 cm Cathy Vedovi 蔵

黒ガラスの玉を使った巨大な二連ネックレス。ガラスの美しさは曇りのない透明感にあるが、ここではあえて不透明な黒ガラスのみを使用し、黒という色の美しさを強調している。作品名は、1960年代にアフリカ系アメリカ人の間で始まった文化運動に関係するかもしれない。肌の色や髪質、顔かたちなど、黒人に特徴的な要素を白人のそれに劣るとされた通念を一掃しようという運動である。この作品には、物や人それぞれの固有の美しさを発見しようとするオトニエルの眼差しが感じられる。 ©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Collection Cathy Vedovi

Photo by André Morin Courtesy of Galerie Perrotin, Paris



### 「ラカンの結び目(Le Nœud de Lacan)」 2009年 鏡面ガラス、金属 150×135×50 cm François Odermatt 蔵

近年、オトニエルのガラス作品は、曲線を描きながらもかつてのような艶めかしさを排除し、抽象的なフォルムへと展開している。加えて「ラカンの結び目」では、鏡面ガラスを用い、ガラスの透明感にメタリックな輝きを加え、未来的なイメージを醸し出している。形はフランスの学者、ジャック・ラカンが自らの理論に組み入れた「ボロメオの結び目」の三つの輪を彷彿とさせる。 ©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Collection François Odermatt

Photo by Guillaume Ziccarelli Courtesy of Galerie Perrotin, Paris



## 【広報用図版】

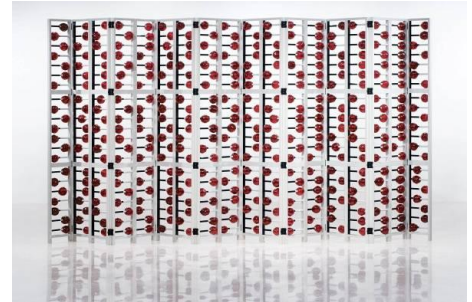
ご掲載時には必ずクレジットを表記してください(スペースに制約のある場合は、作品名、制作年、©、および撮影者名をご記載してください)。トリミング、文字乗せはご遠慮ください。また、前ページに掲載の図版、それ以外の図版もご用意しておりますのでお問い合わせください。



図版 1



図版 2



図版 3



図版 4



図版 5



図版 6

図版 1 「ラカンの結び目 (Le Nœud de Lacan)」(部分) 2009年 鏡面ガラス、金属 150 x 135 x 50 cm François Odermatt 蔵  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Collection François Odermatt Photo by Guillaume Ziccarelli Courtesy of Galerie Perrotin, Paris

図版 2 「ラカンの結び目 (Le Nœud de Lacan)」 2009年 鏡面ガラス、金属 150 x 135 x 50 cm François Odermatt 蔵  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Collection François Odermatt Photo by Guillaume Ziccarelli Courtesy of Galerie Perrotin, Paris

図版 3 「ハピネス ダイアリー (Diary of Happiness)」 2008年 ムラーノガラス、木 206 x 348 x 33 cm 個人蔵  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Private Collection Photo by Mariano C. Peuser Courtesy of Galerie Perrotin, Paris

図版 4 「涙 (Lagrimas)」 2002年 ガラス、水、テーブル 140 x 500 x 70 cm 個人蔵  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Private Collection Photo by Guillaume Ziccarelli Courtesy of Galerie Perrotin, Paris

図版 5 「私のベッド (Mon Lit)」 2002年 ムラーノガラス、アルミニウム、飾りひも、フェルト 290 x 240 x 190 cm François Odermatt 蔵  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Collection François Odermatt Photo by Patrick Gries Courtesy of Galerie Perrotin, Paris

図版 6 「神父のローブをまとった自画像 (Autoportrait en robe de prêtre)」 1986年 白黒写真 4.6 x 6.7 cm (写真) 33 x 43 x 3 cm (額)  
©Jean-Michel Othoniel/Adagp, Paris 2012 Artist Collection Photo by Jean-Michel Othoniel

取材・図版提供などのお問い合わせ先:

原美術館 広報 松浦、野田 担当学芸員 坪内 [Tel 03-3280-0679 E-mail [press@haramuseum.or.jp](mailto:press@haramuseum.or.jp)]

(いずれも広報直通/掲載時には代表番号・アドレスをお用いください)